

科目名	基礎経済学						
科目名(英)	The basic of economics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	白岩 和幸		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	日経MJ新聞の記事の購読・内容理解を通じて、最新のビジネスモデルやビジネストレンドを理解する。事前に月水金曜日に届く日経MJ新聞を自宅購読、スクラップブックを作成した上で、授業の中では発表や討論を通じて理解を深める。 iCDタスクコード CM01.3.3						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				新聞記事やネット情報から「背景・事実・今後の見通し」の情報を読み取ることができる。	
	○	○				新聞記事やネット情報から「誰に・何を・どうやって」という事業ドメインを読み取ることができる。	
	○	○				新聞記事やネット情報とリテールマーケティング検定で学んでいる知識を組み合わせ自分の意見を持つことができる。	
	○	○				複数の記事の戦略ドメインを組み合わせ、新しい事業ドメインを考え、発表することができる。	
			○			指定記事以外にも目を通すなど、情報収集を日常化する意欲態度を持つことができる。	
テキスト・教材 参考図書	日経MJ新聞、スクラップブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・日経MJ新聞の読み方					
	2	日経MJ新聞の読み方・スクラップの作成			MJ新聞の購読		
	3	スクラップ作成・発表					
	4	スクラップ作成・発表			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	5	発表①・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	6	発表②・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	7	発表③・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	8	発表④・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	9	発表⑤・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	10	発表⑥・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	11	発表⑦・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	12	発表⑧・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	13	発表⑨・解説			MJ新聞の購読・スクラップブックの作成		
	14	発表⑩・解説					
15	まとめレポート作成						
評価方法	(1)スクラップブックの作成・提出(計10回)、(2)スクラップブックに基づく発表(3)レポート・課題提出 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	スクラップブック作成・提出		◎		○		60%
	スクラップブック発表		◎		○		10%
	レポート・課題		◎		○		30%
履修上の注意	期日前に必ずスクラップブックを作成し、発表の準備をしておくこと。なお、再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーション						
科目名(英)	business communication						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>社会で求められる働く上でのマナーや仕事の進め方を学び、入学後の学習への取り組み方、クラスメイトや教員との関わり方、その他日常生活の中で活かしながら身につけていくための授業である。</p> <p>取得目標検定:ビジネス能力検定ジョブパス3級</p> <p>iCDタスクコード: SP02.12.5</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人に求められる働く意識について説明できる	
	○	○				仕事の基本となる8つの意識について説明できる	
	○	○	○			指示の受け方、来客対応、訪問マナー、電話対応時のポイントを説明できる	
	○	○				効率的な仕事の進め方、eメールも含むビジネス文書作成のポイントを説明できる	
	○	○				統計データやインターネットからの適切な情報収集のポイントを説明できる	
テキスト・教材 参考図書	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト/公式問題集 プリント 完全図解いちばんわかりやすいビジネスマナー						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の目的/社会人基礎力チェック/キャリア/身だしなみと基本マナー					
	2	仕事のマナーの基本【社内編】				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(2,4)	
	3	ビジネス会話のマナー				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(2,4)	
	4	ビジネス文書のマナー/仕事のマナーの基本【社外編】				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(2,4)	
	5	確認テスト・解説				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(2,4)	
	6	過去問題(新聞読み取り) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(5)	
	7	過去問題(新聞読み取り) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(5)	
	8	過去問題(ケーススタディ) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(6)	
	9	過去問題(グラフの読み取り) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(7)	
	10	過去問題(グラフの読み取り) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(7)	
	11	過去問題(総合) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(5)	
	12	過去問題(総合) / 確認テスト				単語テストのための学習(指定範囲) 授業中に実施した過去問題の復習(7)	
	13	過去問題(総合) / 確認テスト					
	14	過去問題(総合) / 確認テスト					
	15	過去問題(総合) / 確認テスト					
評価方法	(1)授業内評価テスト (2)確認テスト・単語テスト (3)課題提出(宿題) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	○	◎				50%
	確認テスト	○	◎				25%
	課題提出	○	◎		○		25%
履修上の注意	授業で学んだことは、アルバイトなど、日常生活の中で実践すること 授業の中でビジネス用語の単語テストを行うので、指定のページを覚えた上で出席すること						

科目名	フィールドワーク						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>フィールドワークとは、「現地調査」「野外調査」を意味し、実際に現地に赴きインタビューや生活をともにすることで研究を深める学び方のひとつです。この授業では、実際に活躍している社会人に必要なマインドや価値観、考え方、行動について学生自らがインタビューをしながら学んでいきます。</p> <p>iCDタスクコード 該当なし</p>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				訪問先の企業についてHPなどを使って必要な情報収集をすることができる。	
	○	○				質問の意図を添えて、相手や場面にふさわしい質問ができる。	
	○	○				挨拶、敬語、表情、目線、メモ、身だしなみなどビジネスシーンにふさわしい立ち居振る舞いができる。	
	○	○				学んだことをまとめて発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	活躍している社会人とは？事例研究					
	3-4	自己表現					
	5-6	話の聞き方					
	7-8	質問の仕方					
	9-10	業界研究①				進捗が遅れている場合は授業外でも作業をすすめること	
	11-12	業界研究②/課題提出					
	13-14	企業研究①					
	15-16	企業研究②/課題提出				進捗が遅れている場合は授業外でも作業をすすめること	
	17-18	ビジネスマナー①					
	19-20	ビジネスマナー②					
	21-22	ロールプレイング①					
	23-24	ロールプレイング②					
	25-26	インタビュー				レポート作成に備え、メモをまとめておくこと	
	27-28	インタビュー振り返り					
29-30	レポート作成・発表・講評/課題提出						
評価方法	(1)授業内評価テスト(発表・企業からの評価)(2)課題の提出状況 (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト(発表)		○				30%
	企業からの評価		○				10%
	課題提出		○		○		50%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスアプリケーション I A						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	吉田 裕幸		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	ブックの作成・編集、データの抽出や並べ替え、数式の作成、関数の使用、グラフを利用したデータの視覚的表現、印刷設定など、さまざまな目的や状況に応じて数値データを扱えるスキルを身に付ける						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				ブック、ワークシート、セルに書式を設定することができる	
		○				関数を使用して計算を行うことができる	
		○				グラフの作成、オブジェクトの挿入ができる	
テキスト・教材 参考図書	MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集(FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	Windows基本操作、文字入力の基本、タイピング練習					
	3-4	フォルダ・ファイル管理、ファイルのアップロードとダウンロード					
	5-6	ウイルス対策、Windowsアップデート、タイピング練習					
	7-8	アカウント、メールソフトの基本、ケータイとPCの同期					
	9-10	ブラウザの種類と検索の基本、タイピング練習					
	11-12	Excelの基本操作、テーブルとテーブルのデータの管理					
	13-15	セルやセル範囲のデータの管理				ワークシート操作を理解しておくこと	
	16-18	テーブルとテーブルのデータの管理				セル操作を理解しておくこと	
	19-24	数式や関数を使用した演算の実行					
	25-27	グラフの管理				関数を理解しておくこと	
	28-30	ワークシートやブックの管理				グラフ、図形の操作を理解しておくこと	
	31-33	模擬試験実施 第1回から第5回解説					
	34-36	模擬試験実施 第1回から第5回解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
37-40	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと		
41-45	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと		
評価方法	(1)授業内評価テスト、確認テストを実施する。(2)課題演習:単元ごとの確認問題を解答し提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト		◎				60%
	確認テスト		○				20%
	課題演習		○		○		20%
履修上の注意							

科目名	リテールマーケティング						
科目名(英)	Retail Marketing						
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	島田英也		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	リテールマーケティング検定3級の「小売業の種類」「マーチャンダイジング」「ストアオペレーション」「マーケティング」「販売経営管理」に関する知識を習得する。取得目標検定:リテールマーケティング(販売士)検定3級 iCDタスクコード SP01.5.2、SP01.8.1						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小売業の種類に関する用語の意味を説明することができる。	
	○	○				マーチャンダイジングに関する用語の意味を説明することができる。	
	○	○				ストアオペレーションに関する用語の意味を説明することができる。	
	○	○				マーケティングに関する用語の意味を説明することができる。	
	○	○				販売経営管理に関する用語の意味を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	リテールマーケティング(販売士)3級養成講習会テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	【I】小売業の種類 導入、(1)流通における小売業					
	2~12	【I】小売業の種類(2)組織形態別小売業			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	13~15	【I】小売業の種類(3)店舗形態別小売業(4)商業集積			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	16~18	【II】マーチャンダイジング(1)商品の基本(2)マーチャンダイジング			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	19~21	【II】マーチャンダイジング(3)商品計画(4)販売計画および仕入計画			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	23~24	【II】マーチャンダイジング(5)価格設定			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	25~26	【II】マーチャンダイジング(6)在庫管理(7)販売管理			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	27~32	【III】ストアオペレーション(1)ストアオペレーション			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	33~37	【III】ストアオペレーション(2)包装技術(3)ディスプレイ			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	38~43	【V】販売経営管理(1)販売員の役割(2)販売員の法令知識			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	44~48	【V】販売経営管理(3)小売業の計数管理(4)店舗管理			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	49~52	【IV】マーケティング(1)小売業のマーケティング(2)顧客満足経営			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
	53~55	【IV】マーケティング(3)商圈の設定と出店			前回までの授業内容を復習しておくこと。		
55~57	【IV】マーケティング(4)リージョナルプロモーション			前回までの授業内容を復習しておくこと。			
58~60	【IV】マーケティング(5)顧客志向型売場づくり			前回までの授業内容を復習しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験を行う。(2)科目毎の確認テストを行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	確認テスト	○	◎				30%
履修上の注意							

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを知る	
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを知る	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう					
	2	「協働」の態度を持った学生生活					
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～					
	4	マナーの本質 I					
	5	マナーの本質 II					
	6	グローバルシティズンとしての日常					
	7	グローバルシティズンとしての目標					
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを数回実施する (2)授業への取り組みを評価する 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				60%
	グループワーク取組み				◎		40%
履修上の注意	出席が6回(全8回)に満たない場合、または、レポートがすべて提出されていない場合は単位認定できない。再試験は実施しない。						

科目名	教養 I A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井 裕一		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	就職試験に臨むためのSPI(非言語・言語)の内容を学ぶ。論理的思考を養う数学を主教科、読解力を強化する為の国語を副教科とする。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					非言語能力問題(損益・仕事・鶴亀・速度・確率等)ができる	
	○					言語能力問題(二語関係・文法・語句・長文理解)ができる	
テキスト・教材 参考図書	SPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、国語、数学(計算問題)					
	2	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	3	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	4	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	5	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	6	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	7	時事、国語、数学(計算問題)				前回の復習をしておくこと	
	8	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	9	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	10	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	11	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	12	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	13	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	14	定期試験対策				前回の復習をしておくこと	
15	定期試験対策				前回の復習をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。(3)課題はASOドリルレベル1国語数学の実力テストとする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	確認テスト	○					20%
	課題	○			○		20%
履修上の注意							

科目名	情報リテラシー						
科目名(英)	Information literacy						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	瀬崎 美佐緒		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に合った情報の使い方を学び、リスクを知る。</li> <li>・周囲の人と自身を取り巻く環境の中で情報を活用するという事の意味を考えられる土台を作る。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自らを取り巻く環境の中にどんなリスクがあるかを学び、正しい対応を選べるようになる。	
		○				周囲の人間と円滑なコミュニケーションを行うための情報の活用方法を学ぶ。	
	○	○				基礎的なIT関連の知識を学び、一般的なIT知識を身につけ、正しい意味を選択できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	特になし。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	導入・自己紹介					
	2	コミュニケーションにおける情報活用①					
	3	コミュニケーションにおける情報活用②				前回内容を復習しておくこと。	
	4	自らを取り巻く環境の中にあるリスクを知り、情報の意味を理解する				前回内容を復習しておくこと。	
	5	正しい情報の扱い方と活用方法を知る				前回内容を復習しておくこと。	
	6	専門学校2年間で知るべきこと・必要不可欠な情報の得方を学ぶ				前回内容を復習しておくこと。	
	7	リスクと情報①				前回内容を復習しておくこと。	
	8	リスクと情報②授業内評価テスト				前回内容を復習しておくこと。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テスト・レポートを数回実施する。(2)授業内評価テストを実施する。 (3)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト	◎	○				30%
	小テスト	◎	◎				30%
	レポート	○	◎		○		20%
	出席・意欲				○		20%
履修上の注意	自己紹介やグループディスカッションの際は、積極的に参加する。レポートも必ず提出を行うこと。						



科目名	思考力・分析力基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	相手に分かりやすく自分の考えを伝えるために、論理的に考える方法を学ぶ						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		客観的な根拠を示し自分の意見を述べるができる	
	○	○				ロジックツリー、4象限マトリックスを使ってものごとを整理できる	
	○	○				結論に合った具体例を述べるができる	
	○	○		○		問題解決の5つのステップをもとに実際のビジネス課題に自分なりの打ち手の提案ができる	
テキスト・教材 参考図書	論理的思考力が6時間で身につく本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	論理的に考えるとは？					
	2	ロジカルシンキング技法①結論+根拠					
	3	ロジカルシンキング技法②図で考える					
	4	ロジカルシンキング技法②図で考える					
	5	ロジカルシンキング技法②図で考える				課題提出①	
	6	ロジカルシンキング技法③根拠を検討する					
	7	ロジカルシンキング技法③根拠を検討する					
	8	ロジカルシンキング技法③根拠を検討する				課題提出②	
	9	ロジカルシンキング技法④具体例を挙げる					
	10	ロジカルシンキング技法④具体例を挙げる					
	11	ロジカルシンキング技法④具体例を挙げる				課題提出③	
	12	ロジカルシンキング総合演習①					
	13	ロジカルシンキング総合演習②					
	14	ロジカルシンキング総合演習③				課題提出④	
15	ロジカルシンキング総合演習④						
評価方法	(1)定期試験 (2)課題提出 (3)出席状況・意欲(授業内での発言等) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題提出	○	◎				20%
	出席状況・意欲				◎		20%
履修上の注意	課題提出が評価となるため、確実に提出すること。なお、再試験は実施しない。						